

消 息

左右田文庫の内容

新井白石は火事に遭つたとき、書物を庭に運ばせ濡臺で之を圍つて守つた。後に天下の名寶を私すべきでないとして、名流の家に獻じたと傳へられてゐる。左右田博士が世界のカント研究家の羨望の極であるフアイヒンガア文庫を震災のために失はれたことについての述懐の中に、白石のこの話をされたと洩れ聞いてゐる。先生は世界に對してこのことを残念に思はれ、責任をも感じられたといふことである。そのためであらうか、カント研究に資するものは機會を擧げて微細なるものに及ぶまで蒐集せられた様である。左右田文庫に特にカント研究のための資料が多く含まれてゐるのは之に由るものとある人は語つてゐられた。

その文庫の總數は凡そ七千部。今大略の内容を紹介してみよう。

A 哲 學		四六八〇
1	カント	八〇〇
2	プラトン	三七〇
3	アリストテレス	七〇
4	その他の古典	二五〇〇
5	認識論及び論理學	二三〇
6	心理學	七〇
7	倫理學	七〇
8	美 學	五〇
9	宗教哲學	五〇
10	歴史哲學	六〇
11	法律哲學	七〇
12	自然哲學	二〇
13	一般的なるもの	二二〇
14	哲學史	一〇〇
B 數學及自然科学		二六〇
C 歴 史		八〇
D 法 及 國 家		八〇
E 社 會 學		一八〇
F 社 會 主義		三三〇
G 經 濟 學		五四〇
H 文學及藝術		四二〇
合 計		六五七〇

以上は極めて粗雑な報告であるが哲學關係のもの四六八〇に

比してその他のものが一八九〇であることによつて先生の關心がどこに向いてゐたかを容易に知ることができるのである。經濟學及社會關係のものの約千を除けば他は皆哲學に關係深きものであつて、通常に哲學關係としては理解されてゐない經濟及び社會關係のものがここに含まれてゐるのは、先生の學的發展の段階を一方に於ては現し、他方に於ては、その學問的性格をも明にしてゐるものと思はれる。この文庫の特色を二三拾つて見度い。

二

第一に外見上この文庫には小冊のものが極めて多いことは注目に値する。その數で二千近いであらうと思はれる。これは容易な努力ではなかつたらうと考へられるが、凡そそのテーマに關する凡ゆるものを集めるところに先生の學的良心の嚴格さが偲ばれて奥床しく思ふ。

第二に文學書の少いことと藝術に關するものが實に豊富なこと。ミケランジェロへの先生の傾倒はここに明瞭に看取できる。レオナルド・ダヴィンチ、ロダンに關する高價な圖版入りの多くの書物が見出される。文學書には見るべきものが殆どない。第三に數學及び自然科學に關して時間空間論が相當に多いこ

消 息

と及び相對性原理に關するものが歴史的に多いことも注意されねばならぬ。

第四には經濟學には貨幣及び銀行に關するものが約二割あることが擧げられるべきであらう。

哲學に關してはアリストテレスよりもプラトンに多くの關心が拂はれたことは書物の數の上から明である。

カントに就ては直接にカントの著作、全集が種々なる版に於て集められその數一四〇部にも達してゐることや、六五〇部ばかりのカント研究文獻を有つてゐることと共に、一見何の關係もないやうな書物を何のために集められたかと頁をめくつてゆく中に、カントのことが書いてあつたりする例に打突かることが間々あつたこともここに述べられるべきだらう。カント研究はその思想がどこから來たか、誰々と共に或は誰々に反對されて生長して行つたか、誰々に影響を與へたかを明瞭にすることなしには完全に把握されたとは言ひ難い。この文庫ではその點には特別の注意が拂はれてゐることが分つて來る。

カントの直接の先行者である Wolff のものも極めて多數發見される。同時代の人といふ語が正確に何を意味するかは不明であるとしても、カントの生涯は一七二四年—一八〇四年であるから、一七五〇年頃死没した人を前端とし、一七八〇年頃生

れた人を後端としてその間に思想界に登場した人々のうち、その著作が文庫に收められてゐるものは、約七〇名に達してゐるのである。主要なる者を少しく擧げよう。Ja Meurie, Berkeley, Wolff, Baumgarten, Helvetius, Hume Lambert, Voltaire, Rousseau, Hamann, Holbach, Smith Reid, Maimon, Schiller, Herder, Tetens, Fichte, Platner Jacobi, Kiese Wetter, Reinhold, Meiln, Bouterwek, Hegel, Goethe, Schleiermacher, Humboldt, Beck, Herbart, Baader, Neeb, Fries, Beneke, Schelling 等である。カントの立場に立つてゐた Weisnaupt, Feder, Garve, Eberhard, 等のものも見出される。カントの Anhänger である Schulz, Krug, Hoffbauer, Jakob, Meiln, Ruhle, 等も見出される。新カント派の主だつた人々は殆ど集められてゐるといふことができる。即ち Lange, Meyer, Hehnholz, Schulze, Cornelius, Jellmann, Cohen, Natorp, Windelband, Volkelt, Riehl, Vorländer, Cassirer, Stadler, Jasswitz, Vaihinger, Bauch, Goldschmidt, Rickert, 等である。

英國思想史佛蘭西思想史といふ面から見れば本文庫は多くのものを缺いてゐる。語學的に言へば、佛語で書かれたるものを極めて少い。獨逸思想史の文庫としては獨逸文學宗教のものを

附加するならば申分なきものと思はれる。しかし、一般思想史といふよりも、プラトンとカントを樞軸的に考へて、思想史の事實に重點を置くのではなく、ある思想動機のもとに、それはカント研究といふことに恐らくは近いのであり、カントの意味を新世紀に於て新しく把握することを含んでゐるのであらう蒐集されたとみることができやう。その中心がカントであつたことははや動かし得なう。

藝術關係のものが多かつたことはこの見地に立つとき、一つには先生自身の生活態度とも見ることが出来るが、カントとの關係に於て眺めるならば、判斷力批判の問題と關係せしめて理解することもできやう。これは或は思過ぎであることを恐れてゐる。數學や自然科学のものは、純粹理性批判に關してゐることも見えるが、只一つ、實踐理性批判に當るべきものが見當り難い。習俗誌のやうなものを多く集めてはゐないのである。經濟學のものは、自然科学的世界の基礎づけに對應して、經濟世界の基礎づけを企圖してゐられたことを考へ合はせることの、一見奇異な數部門がある一つの焦點を結ぶことともなつて、限りなき暗示を人々に投げかけるのである。 (太田可夫)